

「2009 年度明治大学自己点検・評価報告書」に対する 評価委員会による評価結果

I 総 評

自己点検・評価の結果，明らかとなった諸課題は，本学の発展にとって重要な課題である。創立130周年を迎える2011年度に向けて，本学は諸改革に取り組んでいるが，そのキーワードである“世界へ”，“開かれた大学”を実現するため，評価委員会は下記の7点について，明治大学自己点検・評価規程第17条に基づき，具体的措置を早急に講ずることを提言する。

- (1) 国際化拠点大学へのさらなる進展
- (2) IT・メディアを活用した教育の質向上と教育内容等の積極的公開
- (3) 大学院教育の質向上と大学院学生への研究支援の充実
- (4) 就職キャリア形成支援の特色化と就職実績の向上
- (5) 職員人事制度の改善
- (6) 中長期にわたる施設計画の策定
- (7) 自己点検・評価による大学改革の推進

II 明治大学自己点検・評価規程第17条に基づく大学に対する提言

1 国際化拠点大学へのさらなる進展

本学の教育研究の国際化は，文部科学省の国際化拠点整備事業（グローバル30）やグローバルCOEプログラムの採択を契機に急速に進展しているが，さらなる推進にあたっては，特に以下の事項について重点的，具体的に検討すべきである。

(1) 国際的な研究拠点形成のための研究予算の増額，海外渡航費の充実，及び国内外の大学間連携による国際化の促進

国際的な研究成果を生み出すことは，ひいては世界に通用する人材を育成する質の高い教育に繋がるため，大学として最も重視すべき事項である。国際水準の研究を強力に推進する研究予算の増額，海外渡航費用の充実等，財政面での支援を強化すること。こうした支援をもとに，さらに教育研究活動の国際化を図るため，国際的な展開を図っている国内他大学や，海外大学との教育研究上の連携，教職員や学生交流を活性化すること。

(2) 海外への研究成果発信の強化

国際化拠点大学として，海外から将来性の高い学生を募集し，優れた研究者を招聘するには，本学の研究成果や，諸活動を海外に発信していくことが重要である。海外

発信支援委員会における研究成果の海外発信の充実を期待したい。

(3) 海外派遣留学生の増加と学生の語学力向上

産業界における外国人や留学生重視の人事採用において、日本人学生が就職するにあたっては、留学による異文化学習は重要なテーマとなっている。より多くの学生が海外留学を望むようになる環境づくり、特に就職、進学に向けたキャリア形成の一環であることを理解させることが重要である。さらに海外留学の前提となる語学力向上を図る効果的な教育をより一層工夫することで、海外派遣留学生が増加することを期待する。

(4) 外国人留学生と日本人学生が交流できる宿舎の整備

今後見込まれる外国人留学生の増加に対応して、交換留学生及び招聘教員用の宿舎として和泉インターナショナルハウスが竣工したが、より一層、量的に整備することは喫緊の課題である。量的整備の推進にあたっては、学生同士の国際交流を進める観点から、外国人留学生と日本人学生が交流可能な宿舎を計画すること。

2 IT・メディアを活用した教育の質向上と教育内容等の積極的公開

(1) メディア授業による教育の質向上

IT・メディアを活用した教育は、補習授業や予復習での活用によって教育成果を高めることができるだけでなく、他キャンパス授業の受講を可能にする等、教育の質向上や多様化のために必須である。今後は、より多くの学生が利用できるような教育内容、利用方法の検証を進め、教育の質向上に貢献すること。

(2) 「i Tunes U」による教育内容等の積極的な公開

高校生、高校教員、本学校友及び在学生父母等はもちろん、あらゆる関係者（ステークホルダー）に向けて本学の教育内容や研究活動等を積極的に公開し、本学への理解を深めてもらうために、「i Tunes U」を活用して教育内容等の公開を積極的に推進すること。

3 大学院教育の質向上と大学院学生への研究支援の充実

(1) 大学院における研究者養成について

本学大学院からは、数多くの大学教員、研究者を輩出しているが、より一層、大学院学生が研究者として自立できるよう大学院教育の質を向上させること。特に、本学大学院出身者が、大学教員、研究者としてのキャリアを展望できるよう、大学院学生への研究指導を充実すると同時に、研究者としての力量向上に資する助教制度等を整備すること。その結果、本学大学院出身者が、国内外の大学教員として採用されると同時に、その一定数が本学教員として採用され、本学の学問特性が継承されていくことを期待する。

(2) 専門職大学院における企業、自治体等との連携について

社会の国際化・多様化が進展する現在、企業幹部や地方公務員の能力開発は、業界団体のセミナーや専門研修機関だけでは対応が困難となっている。専門職大学院では、企業や自治体からの派遣学生をより一層受け入れるため、カリキュラムの特色化を図り、諸団体との連携を含め、広報の充実を図ること。

4 就職キャリア形成支援の特色化と就職実績の向上

学部学生の就職について、専門家による個別指導を取り入れる等のよりきめ細やかな支援を行うことによって、本学からの就職実績が少ない企業であっても就職できるよう、特色ある就職支援活動を期待したい。

また、人文・社会科学系大学院修了者の進路について、シンクタンクや経済団体、国際機関等への就職についても選択肢とすべきである。これら諸団体のインターン等として就労経験を積める制度を構築し、大学院出身者が社会で活躍できるよう指導されたい。

5 職員人事制度の改善

本学がトップスクールを目指すには質の高い大学マネジメントが必須である。本学では事務職員の能力開発について、大学院への派遣研修やOJTリーダーの養成等、先進的な施策が取られている。こうした能力開発プログラムの成果や人事考課が処遇に反映し、より一層モチベーションの向上に寄与するよう、現在、検討されている人事諸施策を早期に実現し、改革改善を推進できる事務組織を実現すること。

6 長中期にわたる施設計画の策定

施設整備について、本学として統一したイメージに基づいたキャンパス景観の形成が必要である。現在、130周年記念事業としても推進している駿河台C地区整備計画、和泉新図書館、生田キャンパス第二校舎D館、中野キャンパス計画等も含め、30年、50年先を見据えた統一的デザインを考慮し、かつ景観に配慮した建設計画を推進するため、長中期のキャンパス景観計画の策定が期待される。

7 自己点検・評価による大学改革の推進

(1) グランドデザインの明確化とその評価

今後、本学がブレークスルーするには、全学的に向かうべき方向性について、総花的ではなく重点課題を絞って推進することが必要である。そのために本学が実現すべき具体的なミッションをグランドデザインとして示すと同時に、グランドデザインの進捗を点検・評価する仕組みを構築すること。

(2) 自己点検・評価による大学評価モデルの構築

本学における自己点検・評価や改善アクションプランの実施は、PDCAサイクルによる改善改革効果をあげているので、これをより一層活用し、他大学の範となる大

学運営の改善改革モデルとしていくこと。

(3) ステークホルダーを意識した分かりやすい報告書の作成

学生厚生施設の利用状況，大学の社会貢献の現状等，特に学生や社会等のステークホルダーにとって関心の高い分野，また本学特有の特徴的な分野については，分かりやすく実績を記載し，評価すること。

また，今回の評価委員会では，各キャンパスの視察が行われたが，施設設備の整備状況の視察や現場の教職員や学生の声を聴くことは重要であるので，これを継続すること。

以 上